

平成27年度事業報告

1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

2 研究の現況・進捗状況

(1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、それぞれの原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在の会員構成は、266名の個人と4機関から成っている。

酒米懇談会（第39回、平成27年9月11日開催）においては、(2)口に掲げるように、5名の講師先生に、様々な観点から話題提供をお願いし、活発な意見交換がなされ、参加者にとって大きな収穫になった。

原料米の全国統一分析は、26年度産米について例年どおり行い、84品種、255点の原料米の分析値及び予測される性質について、(3)刊行物等の発行に掲げる文書により、関係者に報告した。

平成27年度産米については、日本酒造組合中央会と酒類総合研究所が実施する早期(0次)酒造適性分析及び放射能分析のための試料として、酒類総合研究所に試料提供した。酒類総合研究所で実施された早期(0次)酒造適性分析の結果について、詳細な解析を行い本年度の原料米の酒造適性情報として12月9日付で各支部に報告した。また、12月上旬までに各支部において分析が終了した結果について取りまとめ、第1次の速報として12月25日付で関係者に報告した。

(2) 研究会開催等

イ 平成27年度酒米研究会総会、第41回酒米研究会

① 開催月日 平成27年5月26日(火)

② 開催場所 東広島市西条西本町28番6号 東広島市市民文化センター

③ 配布資料：平成26年度事業報告、平成26年度決算及び27年度予算案

平成26年度産米の分析結果及び平成27年度産米の分析計画等

ロ 第39回酒米懇談会

① 開催月日 平成27年9月11日(金)

② 開催場所 東京都北区西ヶ原1-23-3 滝野川会館 小ホール

③ 講演内容

1) 「高知県の酒米と吟醸造り」

高知県工業技術センター 上東治彦 先生

2) 「清酒製造に向く酒米の生産と製造での実践」

五町田酒造株式会社 勝木慶一郎 先生

- 3) 「高温による米品質被害のさまざまな発生要因と対策について」
農研機構中央農業総合研究センター 北陸研究センター 松村 修 先生
- 4) 「イネの高温ならびに低温障害（冷害）の発生メカニズム」
東北大学大学院生命科学研究科 東谷篤志 先生
- 5) 「世界のコムギとコメの生産変動を収穫3カ月前に予測する手法の開発」
農業環境技術研究所 飯泉仁之直 先生

④ 出席者58名

(3) 刊行物等の発行

- ・第39回酒米懇談会要旨集（平成27年9月）
- ・平成26年度酒造用原料米全国統一分析結果（平成27年6月15日）
- ・平成27年度早期酒造用原料米全国統一分析解析結果（0次）（平成27年12月9日）
- ・平成27年度酒造用原料米全国統一分析結果（1次）（平成27年12月25日）

(4) 研究連絡活動

(4-1) 原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に参加しているグループ数は、平成28年3月末現在で試料の採取を依頼している機関を含めて29機関である。

ロ 平成26年度産米の分析

平成27年1月～3月の間に、前年から引続き平成26年度産米の分析を行い、84品種、255点についての分析結果を集計し、平成27年6月15日付で日本酒造組合中央会 会長及び分析を担当した各支部に報告した。

ハ 平成27年度産米の分析

① 早期分析（0次分析）のデータ解析

平成27年度産米の早期酒造適性分析及び放射能分析のための試料を酒類総合研究所に提供した（63点）。日本酒造組合中央会と酒類総合研究所との共同研究により実施された酒造適性分析のデータ及び各支部からの造り初期の酒造概況、気象・収穫に関するデータを詳細に解析し、平成27年産米の性質の早期予測（0次）として平成27年12月9日付けで関係者及び各支部に周知した。あわせて、放射能分析の結果についても各支部に周知した。

② 1次分析

平成27年度産米については、12月上旬までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次分析結果と合わせ平成27年度産原料米の性質を予報し、平成27年12月25日付けで関係者及び各支部に報告した。

③ 2次分析

2次分析については現在継続中である。

(4-2) ホームページ

酒米研究会ホームページ (<http://www.sakamai.jp/>) において、酒米分析結果のデータ及び結果概要を更新し、会員間で有効に活用された。